

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 豊橋市立玉川小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒441-1115
豊橋市石巻本町字野添10番地
E-mail tamagawa-e@toyohashi.ed.jp
Website http://www.tamagawa-e.toyohashi.ed.jp
幼児児童生徒数 男子 122名 女子 143名 合計 265名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

本校では、①「環境保全」、②「地域のくらしと福祉」、③「地域のくらしと歴史」という3つの観点から、地域とのつながりを深めて持続的な社会の担い手を育てる活動を実践している。

① 伝統産業である柿づくりを通して行う環境保全学習

5年生になると、総合的な学習の時間に「玉川の柿を育てよう」のテーマのもと、次郎柿についての学習を行う。今年度も、学校農園にある柿の木を数人で1本ずつ担当し、地域の柿農家の方々に教えていただきながら、「摘蕾」、「摘果」、「袋掛け」、「収穫」などの作業を体験した。学習のまとめとして、4年生を招待して学習してきたことの成果を発表し、来年度へ引き継いだ。

② 高齢者を対象とした交流活動を主軸とした福祉学習

本校の特別支援学級の子どもたちは、毎年次年度のカレンダーを作成して、校区内の保育園や老人福祉施設等に配付している。また、手品クラブの子どもたちも、毎年敬老の日に、地域のお年寄りの方々に、練習を積み重ねたマジックを披露している。日頃見守り隊でお世話になっているおじいさん、おばあさん方に楽しんでいただくことができた。

③ 地域の歴史学習

豊橋市の北部には、5～6世紀頃の古墳群が散在している。校区内にも馬越長火塚古墳や宮西古墳があり、6年生になると、「玉川史跡探検」と題し、

総合的な学習の時間に調査活動を行う。県下最大級の横穴式石室や金銅装馬具や玉類等の豪華な出土品等について調べていくことを通して、自分たちの地域への誇りを高め、愛情を深めていくことができた。



① の写真 (摘蕾の様子)



① の写真 (収穫の様子)



② の写真 (手品を披露する様子)



③ の写真 (古墳の見学の様子)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

環境保全学習の柿の栽培については、5年生の「総合的な学習の時間」のなかで、年間計画を作成し、1年を通じて柿に携わる活動をしている。地域で柿を栽培している方々やJAの方々にボランティアとして子どもたちに関わってもらうことも行っている。また、社会科の産業の学習とも関連させたカリキュラムを編成し、実践に取り組んでいる。

福祉学習のお年寄りとの交流については、特別支援学級が生活単元の年間計画のなかに位置付けて実践に取り組んでいる。手品クラブについては、教育課程に位置付けているわけではないが、地域の敬老会の場で休日に発表をし、地域のお年寄りにクラブの活動で身に着けた手品を披露している。

歴史学習については、6年生の「総合的な学習の時間」のなかで、年間計画を作成し、取り組んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

環境保全学習の柿の栽培については、年間計画や教材・ワークシート類を整えたり、地域のボランティアの方々と綿密に打ち合わせを行ったりする体制ができている。

福祉学習については、地域の敬老会、クラブボランティアの方との連携ができている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

内部では子どもたちの学習の振り返りなどをワークシートに書く活動を行い、それをまとめていくような活動により、評価につなげている。しかし、外部の評価については、十分な取り組みができていない。ボランティアの方々や敬老会などの方々にアンケートをとるなど、外部による評価も検討する必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

環境保全学習の柿の栽培の活動のなかで、本年度は、テレビ局、新聞社の取材を受けた。テレビでの放送を録画し、全校で5年生の活動を見合う場を設定した。また、保護者にもメールを流し、活動の様子を紹介した。また、学校だよりなどで活動の様子を紹介している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

環境保全学習の柿の栽培については、JA石巻（いしまき）の青年部の方々にも協力をいただき、岩手県石巻（いしのまき）の復興プロジェクトとも関わっている。柿の袋に復興に向けてのメッセージを全校児童がかき、その袋に包んだ柿が石巻（いしのまき）に届けられている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

学校単位では十分な取り組みができていない現状である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

環境保全学習の柿の栽培は、例年5年生が行う活動として、子どもたちの中にも浸透している活動である。そして、年度末にはそれが4年生に引き継がれていくという本校の伝統的な学習となっている。教員も年間を通じての活動であるために、カリキュラムや教授法を工夫しながら年間の活動を考えて実践を行っている。地域のボランティアの方々の協力も得られ、子どもたちにとって地域への思いや栽培の苦労や収穫の喜びを感じられるうえで、すばらしい活動であると考えます。

※チェック事項 2-5 に対応

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

「環境保全」、「地域のくらしと福祉」、「地域のくらしと歴史」という3つの観点から、地域とのつながりを深める活動を行ってきた。地域のボランティアの方々とのつながりもできているなかで協力してくださる体制は整っている。歴史の分野については、人材の発掘が課題ではある。そういったところから、平成30年度も現在の活動を継続し、内容については子どもや地域の状況を踏まえながら、カリキュラムを随時検討しながら編成し直していきたいと考えている。子どもたちが地域とのつながりを深めて持続的な社会の担い手となるような活動を実践していく。